2020
新春
座談会

深良用水通水350周年

～先人の偉業に感謝、地域の財産を次の世代へ～

1670年に完成した深良用水は、４月25日㈯に通水350周年という節目を迎えます。深良用水の恵みと先人の偉業に感謝し、市と芦湖水利組合、さらに市民主体による多くの記念事業が企画されています。

深良用水を通じ、裾野市にある魅力ある財産を内外に広く発信し、次の世代に伝えていく必要性や、これからの市の発展につながるアイデアなどについて語ってもらいました。

座談会参加者（順不同）

- **大庭 満治さん**
  深良用水350感謝祭実行委員長
- **志村 守雄さん**
  深良地区郷土資料館運営委員会会長
- **増田 喜代子さん**
  深良地区婦人会長
- **髙村 謙二**
  裾野市長

2020　新春座談会

深良用水との関わり
～その恵みを改めて考える～

市長▶深良用水は、江戸時代に深良村の水不足を解消し、新田開発を進めるために作られた用水路です。芦ノ湖からトンネルを掘り水を引き込むことを提案した江戸の町人友野与右衛門と、村の名主大庭源之丞を中心に３年以上の歳月を費やし、1670年に完成しました。それは前例のない大土木事業でした。今年で通水350年。その恵みは今日まで途絶えることがありません。まずは、自己紹介を兼ねて、深良用水に関する思い出や関わりなどをお伺いしたいと思います。

大庭▶深良用水350感謝祭の実行委員長をしている大庭満治です。深良大洞川土地改良区の推進役である副理事長の職にもありますので、深良用水に関わりの深い人間だと思っています。どうぞよろしくお願いします。

志村▶深良地区郷土資料館運営委員会の会長を務めております志村守雄です。よろしくお願いします。

　私が子どもの頃は、深良用水のことを親たちや学校からあまり教わったことがありません。今の子どもたちは隧道（ずいどう）見学で中に入る機会もあるし、学校教育で深良用水の勉強をし、深良中学校では劇も披露してくれています。それは非常に良いことだと思います。思い出といえば、よく小・中学生の頃に箱根に遠足に行きました。その時に穴口はここだとか、発電所を見せてもらいながら、湖尻峠や仙石原、遠くは箱根神社まで歩いて行ったものです。

増田▶深良地区の婦人会長をしている増田喜代子です。大庭さんが会長をされている350感謝祭実行委員会の女性部の代表としても関わっています。私は、子どもの頃は下和田で暮らしていました。陸稲（おかぼ）とか麦を食べていた時代ですが、深良のおばがいつも真っ白な米を背負ってきてくれました。おばが来ると白いご飯が食べられるので、深良っていいな、と思っていました。その後ご縁があり、深良に住むことになったのです。

　用水への想いは、今からもう８年位前になるでしょうか、深良中の校長先生として赴任された鈴木史良先生が深良用水に感銘を受け、これを劇にしたいとお話があったのです。それは良いことだと思い、当時持っていた資料を全部お渡ししたところ、脚本を持って来られました。

市長▶それはすごいですね。

増田▶その脚本を夫と一緒に最後まで読むと、涙がこぼれてしょうがない。これは素晴らしいということで、何とか劇を実現させたいと思い、深良財産区や地域の皆さんに声を掛けた経緯があります。その劇が現在も続いていることに深い感慨を持っています。

深良中学校による劇「いのちの用水」

市長▶市長の髙村です。市内には、各地区のプライドにつながる素晴らしいものが間違いなくあります。その筆頭ともいえるのがこの深良用水です。最近では富岡地区の葛山城祉保存会によるもののふの里「葛山城まつり」や、岳南ふるさとやリバーフレンド富岡による景ヶ島周辺の美化活動、須山地区の御師の家や公園整備の関係など、各地区でプライドを高めるような活動が進んでいることはうれしく思います。自分たちが住む地域に愛着や誇りを持ち、シビックプライドが醸成され、その次に自分たちが当事者としてもっと良くしようという動きにつながれば、素晴らしいまちづくりになると思っています。

　ところで、深良用水は平成26年に世界かんがい施設遺産に登録され、優れた構造物だということが世界にも認められました。このことについてどう思いますか。

大庭▶何といっても、この土木事業ですよね。箱根の水を深良のこの地に引こうという発想は素晴らしいと思います。３年何カ月かけて1,280メートルのトンネルを貫通させて成し遂げました。素晴らしいリーダーとみんなの団結力があって成し得たものだと思います。

志村▶尊敬の念を持って言うならば、かんがい施設遺産と言いながら、農業用水としても、発電用水としても、そして生活用水としてもまだ生きているんで

すよね。生きているから中に入ることが難しいというもどかしさはありますが、運営委員さんの協力を得て、郷土資料館で資料の展示をしています。

市長▶江戸時代に芦ノ湖からトンネルを掘って水を通す発想自体がすごいことですよね。そういえば先程、増田さんから白いご飯が食べられるという話がありましたが、皆さんも深良用水の恩恵を感じることがありますか。

大庭▶米作りにしても野菜作りにしても、深良は水に困らない。口には出さないですけど、恩恵にあずかっているというのは皆さん日々感じていることだと思います。常に一定量流れてくれているので、そういう意味ではありがたいです。

市長▶「有り難い」ということは普通ではないんだよ、ということなんですよね。

増田▶私もいつも感じながら生活しています。須山、下和田には川はあるけど、普段は水が流れていません。深良ではどこの家のそばにも毎日水が流れ、せせらぎがあります。私にとっては夢のようです。夫からは、深良用水から流れてきたところには、ウグイやウナギがいたと聞きました。最近は水がきれいになったせいか、毎年自宅近くの川でも蛍が見られます。

市長▶そうそう、蛍がいるんですよね。私の自宅近くの川でも飛んでいますよ。

大庭▶蛍といえば、現在農地の整備事業を進めている深良大洞川土地改良区は、「蛍がすむ」と「水田に映る逆さ富士がある場所」をサブキャッチフレーズにしてＰＲしているんです。

市長▶日本一の逆さ富士ですよね。あそこは。

志村▶深良用水はありがたいと思う一方で、当たり前のように使っている気もします。一般の人は、水門の開け閉めや水の調節などの用水管理のことはほとんど知らないと思いますので、そういうことも分かるといいですね。水配人という人がいると聞いたのですが、その人がやっているのですか。

志村さん

市長▶水配人は上郷、中郷、下郷に２人ずつおり、責任を持って話し合いながら管理しています。水が来る、来ないといった問題が発生したときの調整なども行っています。実際の操作については、それぞれの地区ごとに水利権者で役割を決めて行っていますね。

志村▶普段管理や操作をしている人がいるのですね。

市長▶志村さんは郷土資料館運営委員会の会長さんですが、どんな活動をされているんですか。

志村▶深良用水に関するものだけではなく、地元の人々の寄贈品なども含め、村の時代から伝わる深良地域の貴重な資料を展示・保管しています。このうち、深良用水に関する資料は、世界かんがい施設遺産に登録された深良用水を内外に広めたいという市の働き掛けもあって、現在は市の運営のもと、レプリカを市民文化センターで常設展示しています。開館中はいつでも無料でご覧になれます。

郷土資料館は、コミセンのリニューアルもあり一時閉鎖していましたが、昨年は夏休み中に小・中学生に見てもらおうということで、郷友会の協力を得て、夏休みの土・日曜日の午後に開館しました。子どもたちも勉強に来てくれて、来館ノートを見ると20人程が名前を書いてくれていました。郷土資料館を見学したい人は、深良支所に相談してください。

市長▶貴重な資料なので、子どもたちだけでなく皆さんにも見てほしいですね。

深良用水だけではない
皆さんが考える裾野市の「魅力」とは

市長▶先程も、裾野市には深良用水以外にもたくさんの良いものがあると申し上げましたが、皆さんで特に魅力と感じているものはありますか。

大庭▶とにかく富士山の眺めが素晴らしいことです。東には箱根あり、西には富士山、愛鷹山ありということで、景観に恵まれています。特に箱根は、県道仙石原新田線が観光・経済・防災という面面でも重要な路線ではないかと思います。深良から15分程度で箱根に行けるくらいのルートなので、拡幅できれば裾野全体のポテンシャルもずっと上がると思います。

大庭さん

市長▶富士山にも直結ですからね。

志村▶深良からなら仙石原もすぐですね。それに加え、ウォーキングコースなども整備すればもっと魅力的になると思います。私が子どもの頃はよく遠足で歩いていましたし、近くには発電所や有名な企業もありますので、見学などもさせてもらえるとなお良いと思います。

増田▶農業に目を向けると、裾野は首都圏から近いということで、下和田には新型野菜農園を経営する農業法人が進出しています。地元の深良でも新規就農のイチゴ農家やセロリ・サラダほうれん草の水耕栽培など、若い人たちが新しい方向性をもってやってくれています。こうしたものも魅力的だと思います。

志村▶実は、今出ましたイチゴ農家さんなのですが、市や農協の人に間に入ってもらって、休耕田だった私の農地を使ってもらっているんです。草刈りが大変だったのですが、今は農家さんで管理をしてくれるので、助かっています。

増田▶そういうことってすごいことだと思います。移住・定住の施策の中で「裾野でこんなことをやって自分の夢を叶えた人がいます。市でも支援をします」とＰＲしたら、一石二鳥か三鳥になるのではないでしょうか。

市長▶そうですね。裾野はチャレンジする人を応援しますよ。

増田▶友人が来た際に、よく大野原のススキを見に行きます。皆さん大感激するんですよ。

志村▶私も、西日が当たったときの輝きが本当に素晴らしいと思っています。

増田▶ここで話をするだけでもたくさん良いものが出てくるのだから、「裾野には何にもないよ」なんてことを軽々しく口にしないほうがいいですね。自分たちのまちなんだからプライドを持たないと。

増田さん

深良用水通水350周年記念事業
先人の偉業を称える式典と市民イベント

市長▶市と芦湖水利組合では、４月25日㈯に深良用水通水350周年記念式典を行います。翌日の26日㈰には、市民主催イベント「深良用水350感謝祭」があります。他にも記念誌の発行などの関連事業を企画しています。もともと「深良用水まつり」は区長会と地元の有志のみなさんが中心となり立ち上げたそうですね。

増田▶先に話をしてしまったのですが、深良中の鈴木校長先生が交代すると、せっかく続いてきた素晴らしい劇もなくなってしまうのではないかということが危惧されました。子どもたちから「三百何十年前の話が無くなってしまっては困ります」という話を聞いたときに、大人も子どもに負けていられないということで、お祭りをやろうということになったんです。そのうちに、当時区長会長だった大庭さんも来てくれて、何をしようか夢のようなことを何度も話し合っていました。そこで、深良用水まつりで深良用水の通水当時の衣装で地区内を練り歩く仮装行列のアイデアが生まれたんです。

市長▶素晴らしいですね。

増田▶仮装行列だけではつまらない。「せっかく水が来たんだから、お田植えをやって感謝をすれば良いのでは」「そのお米はもち米にして、次の年にみんなに振る舞えば……」というように話がどんどん決まっていきました。

市長▶まちづくりはコミュニティづくりなんですよ。このようなコミュニティづくりが、市のまちづくりにもつながっていくのです。

増田▶最初はまつりを開催するためのお金なんか何もない状態でしたが、各区の区長さんも協力してくれました。特に良かったのは、その年の区長さんが次の深良用水まつりの実行委員会の主力になってくれるようになったことです。そこで、350感謝祭をやろうというときに、リーダーは大庭さんしかいない

ということになりました。全会一致でね。

市長▶感謝祭では、どのような企画がありますか。

大庭▶市・芦湖水利組合の式典に引き続き、日曜日に盛大にやりたいと思っています。まず、深良用水まつりと同様に仮装行列を考えていますが、大庭源之丞さんのお墓から市民文化センターまで歩くルートを予定しています。市民文化センター近くの田んぼで早乙女のお田植えも行います。それから、行列に参加してくれた人や子どもたちに参加してもらい、風船を持って350の人文字を作り、風船を飛ばす様子をドローンで撮影したいと思っています。

また、昨年11月の深良地区コミセンまつりで用水弁当のコンテストをやりましたので、式典では特選になったお弁当を来賓に食べてもらおうと思っています。

増田▶そうですね。女性陣が頑張って作り、販売もできないかな、と考えているところです。

大庭▶深良用水通水350周年の記念切手も作りました。350感謝祭などで販売したいと思っています。

その他に、関連事業として深良小学校東側の組合道沿いに壁画を描いています。深良用水に関係するデザインを深良小・中学校の子どもたちから募集しました。88点の応募があり、特選に選ばれた２点のデザインを採用しました。地域全体でとにかく350周年を祝いたいという思いで、スタッフ一同全力で取り組んでいます。私たちと一緒に当日の運営をサポートしてくれるボランティアも募集したいと考えているので、皆さんよろしくお願いします。

市長▶深良用水は地域の宝というだけでなく、市の宝であり、御殿場市、長泉町、清水町を含んだ２市２町の宝でもありますので、行政もしっかり守っていかないといけないと思います。そういう中で、350感謝祭実行委員会の皆さんにはメインとなって力強くやってもらっています。感謝の気持ちしかありません。大きなイベントですので当日盛り上がるよう、手を携えて一緒に取り組んでいきましょう。

高村市長

裾野市の魅力を発信するために必要なこと、できること

市長▶最後になりますが、裾野市の魅力を発信していくために皆さんができることや、これから必要と思うことについてお話を伺えればと思います。

大庭▶この350感謝祭のイベントだけではなく、深良用水の魅力を生かし、とにかく米作りをやりたいですね。集落営農というか、集約化で農業をもう少し発展させたいし、裏作みたいな形で米以外の作物もできるようなものを考えたいです。改良区でほ場整備事業に関わっていますが、その整備が終わった段階で、新たにそういった農業法人を立ち上げて、そこからまた発信をしていきたいという気持ちもあります。

市長▶農業に興味のある人って、若い人も結構いると思います。法人化によって、農業を通じ地主と法人との新しいご縁がつながっていくのもアイデアだと思います。

大庭▶せっかく魅力ある20ヘクタールの農地を整備していただいているので、これを生かしていきたいと思っています。

増田▶若い人たちにも、地域の中に積極的に入ってきてほしいですね。僕知らないではなく、地域の中で一緒になって何かをやっていくことで、市長の言うシビックプライドが育まれ、本当の意味での発展につながるのではないでしょうか。みんなで頑張ろうという風潮をぜひ作ってほしいと思います。

市長▶仲間として、楽しくですね。

志村▶私は中小企業関係の人と話をすることがあるのですが、近年は災害なども多く、良い場所を探している企業もあるので、大手だけでなく中小の企業をもっと誘致すれば良いと思います。多くの企業が来ていただければ、それなりに人口も増えますし。

大庭▶実は、人口減少化社会になっていく中で、限界集落になってしまうのではないかという不安もあるんです。地域でまちづくりのワークショップなども行われていますが、人が住んでくれる条件は何か掘り下げていく必要があると思います。就職先の確保もその一つであると思います。人に住んでもらえれば、税収も増え、まちも活気づきます。

志村▶裾野市はとにかく空気がいいし、水もいいし、こんな良いところはないんですよね。一方で、私の個人的な印象なんですが、雑草だらけの場所や、道路の整備が良くない所が気になります。マイナスイメージにつながるものは改善していきたいですね。

増田▶最近女性たちで話をするときによく話題となるのが、だんだんと車の運転から遠ざからなければならない年代に差し掛かっているので、歩いて行ける所にお店があったり、病院やスポーツジムがあったり、そういったコンパクトなまちができるといいな、という話です。ですから、深良新駅とその周辺の新市街地を目指すところには大きな期待をしているんです。新駅はまだ先だとしても、まずは新市街地ができて、みんなで歩いて何かができる街ができればいいなと思います。

市長▶今年、深良用水通水350周年という節目の年を迎えることに関しては、皆さんをはじめ地域の人々がまさに自分のこととして取り組んでいただいております。このようにチャレンジしてくれる市民や地域の皆さんを、これからも応援していきたいと思っています。市でも、まちづくりを自分事と思ってもらい、当事者意識を持ってまちづくりに参画してもらえるような仕掛けをしていきます。

今年はオリンピックもあります。ちょうど１年後には裾野市が誕生してから50周年となります。そういうものも大きな仕掛けとして、市民の皆さんがやりたいことをやってもらえるような場にもしていきたいと思います。

新春あいさつ　新たな時代に向かって

裾野市長
髙村 謙二

明けましておめでとうございます。平成から令和へと新たな時代を迎え、輝かしい希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

東京2020オリンピック開会式翌日に開催される男子自転車ロードレースは、随所で雄大な富士の姿を存分にご堪能いただける市内のコースを走ります。国内外の多くの皆さんに訪れていただけるチャンスと捉え、裾野市だからこその“おもてなし”と“レガシーづくり”に市民の皆さんとともに取り組みます。

加えて４月には深良用水通水350年、令和３年１月１日には市制施行50年の節目を迎えます。市民の皆さん自らが祝い、主体的にまちづくりに参画していただけるよう、市民の皆さん自らが作り上げていく取り組みを進めます。

「令和」には、個性が尊重、発揮される中でそれぞれが調和し豊かな文化が花開くとの期待が込められていると聞きます。個性の発揮は地方創生に取り組む地方自治体にとりましても重要なテーマであり、「豊かな自然」「温かい人々と地域コミュニティ」「未来を見据えた研究・生産活動を続ける企業群」などは裾野市が最も大切にすべき個性であり資源です。「田園」と「未来」の調和、都会にはない裾野市ならではの暮らし・人生の価値観の創造に向けて、「まち・ひと・しごと」づくりを進めてまいります。

今年は「子年（ねどし）」。十二支のスタートであり全てのエネルギーが再生を始める年といわれます。企業を含めた市民の皆さんとともに、新たな時代に向かって英知を集め、まちのグランドデザインである「第５次裾野市総合計画」や「次世代型近未来都市構想」を策定し、「未来のまちづくり」のスタートの年とする所存です。

結びに、皆様のご健勝ご多幸と新たな時代に向けて大きな飛躍の年になりますことを心から祈念申し上げまして年頭のあいさつといたします。